

## ローマ人への手紙 第5章 5節

「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

墮落した世界を大洪水によって滅ぼした。その危機から救われた者たちは乾いた大地に現れた虹を見た。そのしるしは、神が再び水によって人類を滅ぼすことはない誓いであった。それ以来、弧を描く虹を見る度に人々は神の誓いを思い起こし、その虹に希望をたくしてきた。

それから、気が遠くなるほど時は進み、新しい形の希望を人々は体験している。古には神の誓いを希望の土台としていたが、今は私たちの心に注がれている希望である。聖霊によって確かにされる希望である。神が直接私たちの心に来てくださり保証される希望である。雨上がりの空を見上げ虹を仰いで希望を思うこともよい。しかし、どのようなときにでも、私たちの心に住まわれる聖霊なる神による希望に在ることは特別である。

神の愛が心に注がれている。ここからの希望である。希望的観測を意味する、あやふやな希望がある。だから希望を声高に幾度も叫ぶ。稀な望みだから、暗に適わないことを織り込んでいる。しかし、聖霊なる神が乗り込んだ希望である。この希望だけは失望に終わらない。